

III-2

シイタケ菌糸体培養培地抽出物 (LEM) の投与による 子宮体癌の術後再発予防効果についての検討

○小濱 隆文

恵寿総合病院 産婦人科

【目的】

婦人科系悪性腫瘍の中で、子宮体癌は卵巣癌と並び年増加傾向にある。治療法は手術が中心で、併せて放射線療法、化学療法、ホルモン療法などが行われているが副作用も強く、特に再発後の治療法に関しては、効果の期待できる治療法は極めて少ない。シイタケ菌糸体培養培地抽出物 (LEM) は、抗ガン作用、免疫節作用、抗ウイルス作用や肝炎に対する治療効果 (B 型・C 型) など多彩な作用を有することが知られており、副作用も極めてすくない。今回、子宮体癌患者に対し術後より LEM を摂取させ、再発の有無を中心に経過観察した。

【方法】

対象は、当院で診断された子宮体癌患者 13 例で、年齢 61.2 ± 11.4 (平均 \pm 標準偏差) 歳、術後 stage は Ib から IIb で組織型は全て Endometrial Carcinoma (内、リンパ節転移 2 例) であった。広汎子宮前摘出術後、carboplatin+endoxan+adriamycin を monthly 投与法にて 3 クール施行後退院、退院後は他の化学・ホルモン療法は施行しなかった。LEM は術後 2 週間目より 6g/日 (3g \times 2 回) 連日摂取させた。退院後は、膣断端スメア、腫瘍マーカー、音波および CT-scan にて再発の有無を 2 ヶ月おき、さらに再発兆候が認められた際は、1 ヶ月ごとに確認した。

【結果】

現時点の LEM 投与期間は、 22.5 ± 13.5 ヶ月間で、12 例においては再発兆候は認められていない。また、退院後 3 ヶ月後に CA-199 の上昇したものが 1 例あったが、LEM 摂取を 9g/日 (3g \times 3 回) に増量させたところ、再び下降しはじめた。

【結論】

LEM は子宮体癌の術後患者に対し、再発抑制効果を有するものと考えられた。